

# CAP大人向けワークショップに参加して

昨年10月なかまっぴで行われたCAP講習会に参加しました。中標津町更生保護女性会が主催でした。

CAPとは、  
CHILD(子ども)  
ASSAULT(暴力)  
PREVENTION(防止)

の頭文字をとったもので、子どもが暴力から自分を守るための教育プログラムです。

今回はCAPオホーツクの方が中心になり、15人ほどの参加者でおこなわれました。

ワークショップ(講習)では、いろいろな設定でロールプレイ(寸劇)を行います。今回は「学校でのいじめがテーマでした。いじめられた子といじめた子に対してどのような心情を持つのか考えてもらいます。次に、いじめ

をやめてもらうために、「こうしたらいけないよ」ではなく、「どんなことができるのか」を考えてもらいます。最後に、後半のロールプレイで解決に導きます。

いじめられた子がいたとき、ほかの子はどんなことが出来るのかを考えてもらい、人として一番大切な人権

(1)安心してぐらす

(2)自信を持つて

(3)だれにも自由がある  
を意識することを大切にしています。

実際の子どもの現場では事態はもっと複雑で簡単には解決しないかもしれない。

最近では、体罰や身体的な虐待、DVや食事を与えない(ネグレクト)など、子どもたちを取り巻く環境が大変なことになっています。



しかし、このような取り組みに出来るだけたくさん子どもたちが参加すれば、安心して、自信を持ち、自由な明るい子どもたちがたくさん増えるのだと思うと感心しました。



このCAPの活動の  
申し込みやお問い合わせ先

CAPオホーツク中標津  
窓口 小柳 ひろみ  
090-2052-5566

## 編集後記

近年、地球温暖化にともない、海では海水温の上昇等の理由から、今まで北の特産となっていたサケ・イカが不漁となり作物も米どころ日本のはずが、暑さによって米の出来が悪くなる現象が起きています。そのような中、私としてはちょっとうれしい事があります。それはサツマイモがこの地域でもおいしく収穫できることです。今まではどちらかというと南国の作物でしたが、ここ何年か知人にいただけるようになり、そして期間限定ですが、店頭にも大袋に入った地元栽培物が安価で並んでいます。今年あたり自分も挑戦してみようかと思いましたが、収穫までの手間を聞くと、気に気持ちが悪え、やはりもらうことが一番と思っている私です。



井上順子

◎本誌へのご意見や問い合わせなど、身近な民生委員児童委員にお寄せ下さい。

# 民児協だより ふれ愛



この広報誌は赤い羽根  
共同募金の助成を受けて  
発行しています。

=第65号=  
令和7年3月発行

中標津町民生委員児童委員協議会  
(中標津町役場町民生活部福祉課内 ☎74-0884)

## 「あなたはしていますか！」



中標津町民生委員児童委員協議会  
総務企画副委員長 澤谷 修一

メジャーリーグの大谷君は「ごみひろい」をして、「あいさつ」をして、自分の成績を残すためでは無く、チームの為に野球をして、結果として唯一無二の成績を残し、誰からも愛され、世界中に日本人の姿を示してくれています。

しかし、年々町内会行事でも、「ごみひろい」「草刈り」等々の行事に参加する人が少なくなり役員もやる人がいなくなっています。

自分の住んでいる場所でも大谷君を見習うことがあるのではないのでしょうか。

私の住んでいる東中では、80歳以上の独居高齢者が年々増えています。隣近所で気をつけ合って住まないとならない時代と思われれます。

自分の住んでいる所なんですから

「あいさつ・みまもり・たすけあい」

あなたはしていますか!!



今年は3年に一度の一斉改選です。  
(11月30日で任期満了となります。)

# 民生委員・児童委員に なりませんか!



## 民生委員・児童委員は 各関係機関のつなぎ役です。

民生委員・児童委員は地域の方の心配ごとと困りごとを聞き、関係機関への「つなぎ役」になります。また委員が困った時、頼りになる仲間もいるので安心。

2ヶ月に一度例会を開き、情報交換もします。中標津では56名の民生委員・児童委員が活躍しています。

※候補者は中標津町民生委員推薦会や北海道社会福祉審議会の推薦を得て、厚生労働大臣から委嘱されます。



## 相談



## 心配ごと 悩みごと

## 第93回全国民生委員児童委員大会 (宮崎大会)に参加して

令和6年11月20日・21日宮崎県宮崎市

大会前は10日程ぐずついた天気でしたが、期間中は1度も雨に打たれる事もなく、天気に恵まれて終わった全国大会でした。

大会1日目オープニングから始まり式典、表彰入進み、「向こう側の笑顔とこちら側の笑顔」まずは私が幸せでいよう〜くまもん等の着ぐるみを制作しているKURUMI株式会社の代表取締役加納ひろみさんの特別講義でした。現在、東京、熊本、台北、シリコンバレーに支店を置き、生み出された着ぐるみは、国内のみならず海外からのオーダーも多く、15カ国以上に届けられています。

社員の9割以上が女性であり、自身がシングルマザーを経験したことから、女性が働き続けることのできる職場環境づくりに早くから取り組んでいる興味深い講義でした。



児協の佐川会長が来年の開催地は北海道札幌市9月4、5日で行います」と紹介すると100名ほど参加していた北海道参加団は起立し、黄色いタオルを振ってアピールしました。会場内にいた3000人の参加者が大いに盛り上がりました。

2日目は5つの活動交流集会と持続可能な民生委員、児童委員制度・活動に向けて取り組むべき事をテーマにしたシンポジウムがおこなわれました。私達は「生活困窮者への支援と地域共生社会の実現」の集会に参加しました。この交流集会のねらいは現在、地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の構築や、生活困窮者自立支援法改定によりさらなる施策の充実を進めるためにおこなわれました。

本集會では、民生委員・児童委員の取り組み事例を通して、地域共生社会の実現に向けた生活困窮世帯への対応を考える機会になりました。



キーワードは、①気づく早期発見 ②つながる(早期支援) ③つくる(継続支援体制) 3つの事例発表があり、民生委員児童委員として活動していく参考になりました。

この研修で北海道の民生委員児童委員の方々と交流を深めることができ、有意義な研修となりました。

(杉本千枝美・川村恭子)

## 親睦を深めた 委員交流会

令和6年10月15日中標津町シルバースポーツセンターで委員交流会を開催しました。

委員23名の参加で、モルック、ポッチャの競技を4チームに分かれておこないました。

初めに社会福祉協議会の職員から競技のルールや加点の方法等(モルックではチームが50点を先取した時点でゲーム終了となるが50点を超えた場合は25点に減点されることや、ポッチャは的となるボール「ジャックボール」に



いかに近づけるかの説明を受け競技が始まりました。

最初は思うところに棒やボールが行かず苦戦していましたが、ゲームを重ねる毎に徐々に慣れ、ボールを投げる際にチームから狙う場所の助言が飛び交うほどになりました。

またモルックでは、好投で加点になると拍手や歓声がおこり、一方、減点になると落胆の笑いで盛り上がり、投げた棒が的をかすったりすると「惜しい」と天を仰いでがっかりするなど上手いかなない場合でもチームが和気あいあい。声を出して応援するなど楽しく面白く盛り上がった中で競技が終了しました。



表彰式を行いその後昼食を取って雑談をしながら休憩し、解散しました。

委員は、日常の活動推進や各種研修会等への参加で親睦や交流を図る機会が少ない中、今回は各委員の方の違った面もたくさん見られ、親睦も深まり楽しい交流会でした。町内会やサークル等の親睦や交流を図るためモルック、ポッチャを企画してはいかがでしょうか。

(生活福祉部会長 大友賢治)